大学情報サミット
UNIVERSITY INFORMATION SUMMIT

情報共有基盤の構築について

立教大学 メディアセンター
根岸　千佳

目　次

- メンバー紹介
- プロジェクトの目的
- プロジェクトの進め方
- 情報共有結果のまとめ
- 次期プロジェクトのテーマ抽出
- プロジェクトの成果
- 今後の展開について

プロジェクトメンバー

- 慶應義塾大学　浅見　健次（湘南藤沢ITC）
- 明治大学　三浦　淳　（情報メディア部）
- 立教大学　根岸　千佳（メディアセンター）
- 早稲田大学　永間　広宣（遠隔教育センター）

＊当初、6大学7名で発足しましたが、紆余曲折があり、最終的には上記メンバーが残りました。。。

プロジェクトの目的

- 各大学における情報環境整備状況の現状と課題、将来計画について情報を共有する。
- 随時更新・共有する基本項目を策定し、各大学における更新計画策定時に参考となるような情報を相互に提供する。
- 情報共有基盤のあり方を検討する。
- 参加大学間の共通課題を整理し、次期プロジェクトのテーマを抽出する。

プロジェクトの進め方

- １．メールによるアンケート
- ２．情報交換会
- ３．LMSを活用した情報共有

1．メールによるアンケート

・調達に関するアンケート
・教員によるWeb成績入力について
・職員のIT環境について
・教員へのパソコン貸与について
・インベントリツールについて
・クリッカー導入について
・オンラインシラバスについて

メリット　：　必要な情報をフリーフォーマットで随時依頼できる（事前準備不要）

デメリット：　結果を共有するためには別途集約が必要

2. 情報交換会

第1回:11月17日（火）13:00～14:00
第2回:　5月18日（火）13:00～14:00
第3回:　6月　2日（水）18:00～19:30

【テーマ】
ICカード、セキュリティ、ソフトウェアのライセンス管理、メールシステム、LMS
無線LAN、など

メリット　：　対面ならではの密なコミュニケーション。セキュリティに関する情報共有もオンラインではやりづらいが対面であれば可能。特に各大学の「失敗体験」は非常に参考になった。

デメリット：　日程調整が困難（皆さん多忙につき。。。）

3. LMSの活用

【利用したLMS】
早稲田大学の Waseda-net Course N@vi を利用
資料の掲載、BBSによるディスカッション、アンケート機能などを利用

【情報共有基本項目に関するアンケートの実施】
各大学における情報環境整備状況に関する基本項目を策定。
随時最新の状況に更新。結果をLMS上で共有。

メリット　：　ディスカッション（BBS）を活用することにより、全てのやり取りを履歴として保存することができる。

デメリット：　設定などの事前準備が必要

➢ Course N@viにおける情報共有（1）

- ✓ テーマ別ディスカッション（BBS）
- ✓ アンケート機能の利用（自動集計）
- ✓ 集約結果を資料共有フォルダに保存

➢ Course N@viにおける情報共有（2） ※ディスカッションの様子

大学情報サミット情報共有PJ > 情報共有内容と端末室アンケートについて　　問合せ

情報共有内容と端末室アンケートについて　担当教員モード

担当教員名：根岸 千佳　投稿期間：2009/11/20 00:00～2010/12/31 23:59　未読数/件数：00/21

タイトル表示(発言順) | タイトル表示(新着順) | 全文表示(発言順) | 全文表示(新着順) | 新着順 | 記事検索　　選択してください。

全選択　全解除

情報共有基本項目のシートは、明日 4日(金)までに cnavi に貼り付けていただければと思います。(明大様は提出済です)

月曜日の午後になってしまうかもしれませんが、できるだけ早くマージするよう努力します。
各校ともお忙しいと思いますが、よろしくお願いいたします。

2(16) アンケート回答見直し(Re: 情報共有基本項目の作成について)　From: 三浦 淳(E2010ZZ2778)[2010/06/02 17:01]　返信

明大・三浦です。

今頃になってしまい申し訳ありません。
どうやって回答したらいいのかわからないので，とりあえず，ここに回答します。
回答できそうなところ，数字の修正程度です。
あ，，，書き換えたセルに色くらいつければよかったですね，，，気が利かずスイマセン。
添付ファイル：M-大学情報サミット情報共有基本項目アンケート20100526.xls

2(15) Re: 情報共有基本項目の作成について　From: 浅見 健次(2009ZZ1074)[2010/06/01 19:34]　返信

浅見＠鹿鹿です

明日 18:00 で了解いたしました。
当日もよろしくお願いいたします。

2(14) Re: 情報共有基本項目の作成について　From: 三浦 淳(E2010ZZ2778)[2010/06/01 19:17]　返信

明治・三浦です。

明日18:00からの件，了解いたしました。

2(13) Re: 情報共有基本項目の作成について　From: 根岸 千佳(2009ZZ1078)[2010/06/01 18:51]　返信

皆様

立教大学根岸です。
返信が遅くなり、申し訳ありません。

➢ 情報共有基本項目

1. ITインフラ	6. 業務支援
2. 教育支援	7. 卒業生支援
3. 研究支援	8. 利用者支援
4. 学生支援	9. ITﾘﾃﾗｼｰ教育・FD/SD
5. 経営支援	

※詳細は配布資料をご覧ください。

情報共有結果のまとめ

※メール、BBS、対面による情報交換の総括

- 1. ITインフラ
  - 端末室についてはシンクライアント導入が進んでいる
  - サーバの仮想化に着手している大学も
  - システム利用IDについては、サービスにより複数のID/PWを利用している大学が多い

2. 教育支援

- いずれの大学もLMSを全学的に導入している
- 授業のオンデマンド配信についても全大学が何らかの形で実施
- 普及に関しては十分な状況とは言い難い
- eポートフォリオについては検討段階
- 導入の成果について効果測定の方法が確立されていない
- 授業運営支援スタッフの育成が課題

3. 研究支援

- 研究業績管理システムについては、いずれの大学もReadへの情報提供を前提にシステムを構築している
- 各大学何らかの形でシステムを断片的に導入しているが、トータルで研究をサポートする仕組みが確立されていない

4. 学生支援

- 「業務システム」としての位置づけで導入しているケースが多く、学生視点でのサービスが提供されているとは言い難い
- 「学生カルテ」「学生ポートフォリオ」の導入については検討段階

5. 経営支援

- パッケージ導入と独自開発が混在
- 財務・人事給与などの法人システムは整備されているが、資産管理、経営情報管理などのシステムは導入が進んでいない
- データを経営戦略に生かすための仕組みを構築することが課題

6. 業務支援

- 基盤となるシステムは各大学とも独自開発（パッケージのカスタマイズ含む）
- 電子申請については各大学で対応状況にばらつきがある
- <u>他システムとの連携が課題</u>
- 利用する職員のスキルに依存する部分も大きく、<u>知識・ノウハウの継承が課題</u>

7. 卒業生支援

- いずれの大学も卒業生に対するサービスが十分に提供できるとは言い難い
- いずれの大学も、大学と卒業生をつなぐための仕組みとしてシステムサービスを充実させる必要性を感じている

8. 利用者支援

- 各大学が提供しているサービスに大きな差異はない
- 支援スタッフのスキル維持・向上と人材育成が課題
- 成果測定、対応履歴データの活用、フィードバックが十分でない

9. ITﾘﾃﾗｼｰ教育・FD/SD

- セミナーの実施状況は大学によりばらつき
- 各種セミナーの受講に関しては「任意」としている大学が多い
- 特にセキュリティに関する啓発活動は各大学とも重点的に取り組んでいるが成果があがっているかどうかがわかりづらい
- FD/SD関連のセミナーについては今後どのように展開していくか検討が必要

- その他. セキュリティ関連

  ※対面による情報交換のみ

  - 職員が利用するPCやメールシステムのセキュリティは今後厳しくせざるをえない
  - 一方で教員が利用するPCのセキュリティに関しては統制が難しい
  - いずれの大学もソフトウェアのライセンス管理について大きな悩みを抱えている

次期プロジェクトのテーマ抽出（1）

- WISDOMプロジェクト「理想的なXXX」シリーズ
  1. 理想的な教育支援システムの検討
  2. 理想的な研究支援システムの検討

→ 各大学における状況が似通っており、課題も比較的共通している。いずれの大学においても今後充実化を目指すべく重点的に検討を進めている分野でもある。

次期プロジェクトのテーマ抽出（2）

- ICT活用教育の効果測定指標の検討

  →共通の効果測定指標と測定方式を検討

- eポートフォリオ導入モデルの構築

  →ポートフォリオの効果的な導入方法について検証を実施

- 学生による各大学提供システムの相互評価

  →協力学生に自大学のシステムとの比較をしてもらう

- FD/SDセミナーの共同実施

  →ICT活用に特化したセミナーを共同で企画・実施

プロジェクトの成果

- 各大学における情報環境整備状況の現状と課題、将来計画について情報を共有する。

  → 複数の手段で情報交換ができた。積み上げてきた信頼関係があるので、形式的なアンケートでは得られないような生々しい情報も共有することができた。

- 随時更新・共有する基本項目を策定し、各大学における更新計画策定時に参考となるような情報を相互に提供する。

  → 情報共有基本項目を策定し、各大学が最新の情報を提供した。

- 情報共有基盤のあり方を検討する。

→ テーマによって共有手段は変えるべき
→基本情報、概容はLMSで共有
→より深い情報、機微な情報は対面で

- 参加大学間の共通課題を整理し、次期プロジェクトのテーマを抽出する。

→ 各大学の現状や課題を整理することができた。共通課題の解決に向けた次期プロジェクトのテーマを抽出することができた。

今後の展開について

- 情報共有こそ大学情報サミットの大きな存在意義のひとつ

→ **今後も継続的に情報共有をはかることにより、各大学における情報化戦略策定に寄与する**

※「プロジェクト」としてではなく、恒常的なアクティビティとして位置づけるべき

大学情報サミット
UNIVERSITY INFORMATION SUMMIT

ご清聴ありがとうございました